




報告番号

香大医博乙 第一 276号

学位論文審査の結果の要旨

平成 28 年 2 月 5 日

審査委員	主査	山本 融 
	副主査	伊村 祐 
	副主査	辻川 明孝 
申請者	米田 有美	
論文題目	Effects of Makeup Application on Diverting the Gaze of Others from Areas of Inflammatory Lesions in Patients with Acne Vulgaris.	
学位論文の審査結果	<input checked="" type="radio"/> 合格 ・ <input type="radio"/> 不合格 (該当するものを○で囲むこと。)	

〔要旨〕

〔背景〕

顔面に皮疹のある痤瘡患者において、その症状を他人の目に触れること、また身だしなみをしてメイクアップができないことが大きなストレスになり、Quality of Life (QOL) を著しく低下させていたが、近年、皮膚科医による化粧指導が痤瘡患者のQOLを向上させることが報告されている。これは、医師から化粧を指導されたことに対する安心感に加え、メイクアップによって皮疹への他人の目にさらさなくてもよいことに対する安心感によると考えられる。しかしながら、メイクアップをおこなうことで他人の痤瘡皮疹部分への注視がどのように変化するか、また効果的な化粧についての検証はおこなわれていなかった。

〔目的〕

メイクアップ（ベースメイクおよびポイントメイク）が痤瘡患者の皮疹部分への他人の注視に対してどのような影響をおよぼすかを検証することを目的に本研究をおこなった。

〔方法〕

顔面に皮疹を有する中等症、軽症の2名の20代女性の尋常性痤瘡患者を被験者とし、メイクアップとして前者にはベースメイクとポイントメイク、後者にはポイントメイクを施した。それぞれの施術の各段階において写真撮影をおこない、画像中の顔面の大きさや明るさなどの補正し観察画像とした。観察画像4枚をランダムに各8秒間画面に映し、男女合わせて22名に観察させ、視線の動きをアイトラッカーによって記録した。観察者の視線の動きから、痤瘡皮疹が存在する右頬部に対する「注視するまでの時間」、「総注視時間」および「注視回数」を算出した。

〔結果〕

ベースメイクを施すことによりメイクアップ前（素顔）の状態と比較して、総注視時間は有意に減

少した。また、注視するまでの時間は増加、注視回数は減少する傾向が認められた。また、ポイントメイクについては、メイクアップ前（素顔）と比較して、注視するまでの時間、総注視時間および注視回数が有意に変化した。ベースメイクのみの場合との比較では、リップメイク（口紅）をした場合に総注視時間で有意な減少が認められた。軽症を対象としたポイントメイクの評価では、注視回数が有意に減少した。

【結論】

メイクアップ前（素顔）と比較して、ベースメイクによって総注視時間は有意に減少し、さらにポイントメイクをおこなうことで注視するまでの時間、総注視時間、および注視回数に変化が認められた。顔面に皮疹を有する尋常性痤瘡患者に対してメイクアップをおこなうことで、痤瘡皮疹への他人の注視が軽減することが明らかとなった。

尋常性痤瘡だけではなく、アトピー性皮膚炎など顔面に皮膚症状を有する皮膚疾患の治療においても、皮膚科医が症状を確認した上でメイクアップをおこなうことは、患者の安心感につながり、治療上有用であると考えられる。

平成28年2月3日に行われた学位論文審査委員会においては、以下に示す様々な質疑応答がおこなわれたが、それぞれに対して適切な回答が得られた。

1. 患者自身はメイクアップによる皮疹部分への注視軽減効果を実感しているのか。
2. 患者が自分自身を対象とした検証の方が意義があるのではないか。
3. 先行研究はどのようにやっているのか、先行研究とどう違うのか。
4. 過去に同様の研究事例はあるのか。皮膚科領域において、アイトラッキング分析は一般的な評価方法なのか。
5. 使用したコンシーラーとファンデーションは何が違うのか。特にコンシーラーについて、皮疹部位に塗布することによる影響はないのか。
6. 痤瘡への治療をおこなっているのか。外用薬を塗布した後に化粧をすることは可能なのか。赤みに対して注視がされているので、赤みをとるような治療をおこなった方がよいのではないか。
7. 人の目が気にならなくなるといったことを評価する系はあるのか。
8. ポイントメイク（アイメイクおよびリップメイク）において、眉にもメイクを施されていたが、意図はあるのか。
9. 観察者人数の設定の根拠はあるのか。実験条件について過去の研究と同様なのか。
10. 今後どのような研究をおこなっていきたいか。
11. 注視に対する性差はあるのか。
12. 男性痤瘡患者も多いが、メイクアップをしない対象者に対してはどのような対応するのか。

本論文は痤瘡治療におけるメイクアップの有用性に関する研究であり、アイトラッキング分析を用いて痤瘡患者にメイクアップをおこなった時の他人の視線の動きを測定し、メイクアップをおこなうことで痤瘡皮疹分への注視が軽減されることを解明した。メイクアップによる痤瘡患者QOL向上の一因を解明した点に意義があり、本審査委員会では審査員全員一致して博士（医学）論文に相応しいものと判断し、合格とした。

掲載誌名	Journal of Cosmetics, Dermatological Sciences and Applications 第5巻、第2号		
(公表予定) 掲載年月	2015年6月	出版社(等)名	Scientific Research Publishing Inc.

(備考) 要旨は、1,500字以内にまとめてください。